

健康のしおり

皆さんの健康のお役に立つように、このようなパンフレットをつくりました。
是非ご覧ください。

港 南 区 医 師 会

横浜市港南区港南中央通7-29

電話842-8806

港南区医師会休日急患診療所

診 療 日 日・祭・年末年始

診療時間 午前10時～午後4時まで

電 話 842-8806

と ころ 鎌倉街道 バス停 吉原
横浜市港南スポーツセンター前

シミ診断と治療

シミは誰にでもあるちょっとした異常なので患者さんは医療機関に受診せずに、化粧品や美容施術に向かう傾向があります。しかし、化粧品は健康な人を対象として人体を清潔に保ち、美しく装うということがその目的であって、医薬品のように治療・診断・予防といった皮膚の構造や機能に影響を及ぼすような効果は期待できないのです。

そのため、どんなに高い化粧品・美容施術を行ってもあまり改善せず、あきらめている人は非常に多いと思います。正しい治療を行わないとうまく取れないシミも多いですからシミの医学的治療価値はかなり大きいといえます。

シミとは皮膚の色素の局所的な増量です。顔面皮膚の色調の濃淡の程度こそがシミの重症度であり、それには様々なパターンがあります。

シミはいくつかの全く異なる性質の疾患の組み合わせであるため、一人のシミ患者さんを診察した場合、どの部位がどの疾患であるかを確実に判断してそれぞれに対する治療法を考えながら組み立てていくことが重要です。

シミは現在大きく分けて5つに分類されています。

1. 老人性色素斑・脂漏性角化症

顔面に現れるシミの中でも最もありふれたシミです。日焼け（外傷・火傷などの時もあり）に続発することが多く、ゆっくと大きくなります。表皮から発生した良性腫瘍と考えます。

2. そばかす（雀卵斑）

小児期から発症し、症状の改善・増悪を繰り返す一種の先天的色素失調症と考えます。

3. 炎症性色素沈着

外傷や火傷の後の一時的な色素沈着で、それらが治癒していれば、いずれ自然に消えていきます。

4. 後天性メラノサイトーシス（ADM）

20歳過ぎに発症し、症状の変動はない深いシミで、一種の遅発性母斑と考えられます。

5. 肝斑

16歳以上に発症する顔面色素斑で頬や額に左右対称に現れる場合が多く見られます。色々な原因の説がありますが、近年、慢性の過刺激による炎症性の色素沈着であると言われていています。

そのため治療としては、それぞれの疾患に対応した最善の治療を行うべきであり、『シミに共通した治療法』というものは存在し得ないのです。つまり巷でいわれるような『シミに効く化粧品』というものはあり得ないのです。最近では、一般医薬品として売り出されたシミの薬のCMでも、シミの種類を限定して効果を表示するようになりました。良い傾向だと思います。

現在、シミの治療は

老人性色素斑・ADMに関してはレーザー治療、そばかすに関してはフラッシュライト（IPL）治療、炎症性色素沈着・肝斑に関しては、肌を刺激しないで良好な状態に保つこと、それからトクソル酸内服なども有効です。また近年、トチノイン・ハイドロキノン[®]の外用療法で、老人性色素斑の治療も行われてきています。もちろんこれらシミの治療中、日焼けは、すべての色素沈着の増悪因子となり得るため、避けたほうが良いです。

まとめ

『シミ』には、さまざまな病態が含まれているので、医学的に適切な診断をして、それぞれに応じた正しい治療を行う事によって症状を改善することができるのです。専門医にご相談下さい。